

B-53 界面活性剤による羊毛製品の防虫加工処理について(才2報)
熊本大教育 谷川 美知子

目的 前報において、アニオンおよびカチオン活性剤加工布の防虫効果について述べたが、今回は上記のアニオン活性剤のうち、特にすぐれた防虫性を示した2種類、alkylbenzene sulfonate (LAS), α -olefine sulfonate (AOS) の加工布について、洗たく堅ろう度を調べた。また染色布に加工した場合の防虫効果、およびその耐ドライクリーニング性を検討した。

方法 試験布は白地モスリンに対し、活性剤濃度10%, 80°C, 30分, 浴比1:50で処理した。洗たくはラオンダオメーターを用い、洗剤(モノゲン)0.3%, 40°C, 10分, 1:50。すすぎ3回, 自然乾燥。この洗たくを3回くり返した。染色布への加工は、染料(Acid blue)5%, LAS 10% (対繊維)と同浴に用いて、100°C, 30分, 1:50で行った。さらに perchloroethylene にて3回の処理を行い、耐ドライクリーニング性を調べた。食害試験は前回と同じく、ヒメマルカツオブシムシ10匹, 28日間とし、水分補正を行い、試験布の減量をもって食害量とした。

結果 2種のアニオン加工布の防虫効力は、アニオン洗剤による洗たくで、いづれもやや増強された。染色とLASの同時加工布は、白地加工布より防虫効果が大であった。即ち白地加工布の食害量1.89mg(無加工布18.27mg), 染色加工布1.75mg(同無加工布23.88mg), 染色加工・ドライ3回1.36mg(同無加工・ドライ3回30.47mg)となつて Acid blue 染色布は、白地より以上に食害されるが、LAS加工により白地加工布より却つて食害が減っている事実は興味ある問題で、さらに検討している。